

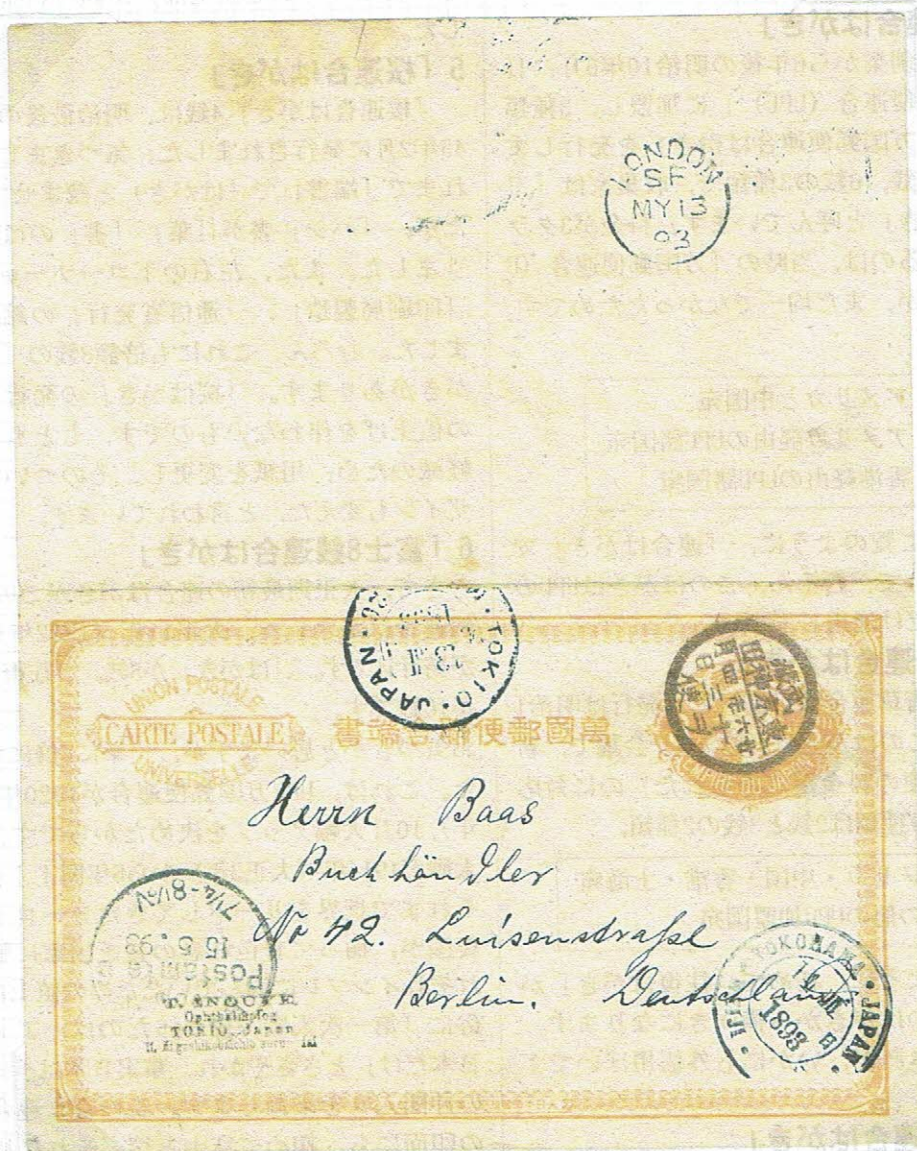
146

2018.6.17

長崎郵趣

- ・ FC 6 (2銭+2銭), FC 7 (3銭+3銭) は、U. P. U. 総理局からの勧告によって発行された。
- ・ 返信部に「返信」"REPONSE"の表示が入った。
- ・ 銘版：大日本帝国政府大蔵省印刷局製造。

日本の葉書③外信葉書
江頭達雄



FC 7

3銭 + 3銭

だいだい黄

3月・4月と2回にわたって普通はがきを見ましたが、今回は「万国郵便連合はがき」をご紹介します。この「万郵連はがき」、本来「外国向けはがき」なので、一般の人にはもともと馴染みが薄い。ベテランコレクターでもキチンとまとめられた「万郵連はがき」のコレクションを見る機会は意外に少ないものです。しっかりご覧ください。

1「三五六連合はがき」

さて、郵便創業から6年後の明治10年6月、日本は「万国郵便連合（UPU）」に加盟し、3種類のいわゆる「万国郵便連合はがき」を発行しました。3銭、5銭、6銭の3種類で、収集家は「三五六連合はがき」と呼んでいます。料金が3クラスになっているのは、当時の「万国郵便連合（UPU）」の料金が、まだ均一でなかったためです。その料金は、

3銭が、アメリカと中国宛
5銭が、アメリカ経由のUPU諸国宛
6銭が、香港経由のUPU諸国宛

となります。ご覧のように、「連合はがき」で唯一の「縦型」で、むしろ、このはがきはUPUの加盟国の間でだけ通用します。

2「薄手唐草連合はがき」

次が「薄手唐草連合はがき」で、発行は明治12年6月です。このはがきはUPUのパリ会議で、新しい「外国郵便の料金が定められた」のに対応したものです。種類は2銭と3銭の2種類、

2銭が、アメリカ・中国・香港・上海宛
3銭が、その他のUPU加盟国宛

です。ご覧のように、初めて「往復はがき」が出ますし、このはがきから横向きになります。左上のフランス語が、いかにも外信用ばいですね。

3「厚手唐草連合はがき」

「厚手唐草連合はがき」は、薄手唐草連合は

がきから13年後の明治25年7月に発行されました。紙質を改良したもので、他は「薄手唐草」と同じです。

4「うす墨連合はがき」

「うす墨連合はがき」は、明治31年3月に発行された4銭はがきです。これまで、「宛先の国によって違っていた料金が、UPUの定めた改正によって、初めて「加盟国全部」が同一料金になりました。

5「桜連合はがき」

「桜連合はがき」4銭は、明治最後の年、明治45年2月に発行されました。気づきましたか？これまで「端書」で「はがき」と読ませて来ましたが、「ハシ」書が「葉」「書」のはがきとなりました。また、左右の下コーナーに「印刷局製造」、「逓信省発行」の銘版が入りました。むしろ、これにも倍額8銭の「往復」はがきがあります。「桜はがき」の発行は、料金の値上げを伴わないものです、もともとコスト軽減のため、用紙を変更し、そのついでに、デザインも変えた、と言われていました。

6「富士8銭連合はがき」

さて、大正期最初の連合はがきがこの「富士8銭連合はがき」で、大正11年（1922年）1月1日が発行日です。「はがき」が8銭、「往復はがき」が16銭です。

お気づきかと思いますが、一挙に2倍になりました。これは、UPU万国郵便連合が1920年（大正9年）10月大幅アップを決めたからです。第一次大戦が1914年（大正3年）から5年間！つまり、それまで世界をリードしてきたヨーロッパの主要国が、揃って青色吐息の貧乏国家に転落、それぞれインフレに悩んでいたための値上げです。俗に「第一次大戦で儲かったのは、アメリカと日本だけ」とささやかれ、事実日本は「一等国」の仲間入りを果たします。この富士連合はがきの印面にも、初めて富士と桜、それに旭日が勢揃いし、当時の日本人の喜びと鼻息の荒さ？を

伺わせます。

7「富士連合加刷はがき」

「富士連合加刷はがき」の発行は大正14年10月1日。第一次大戦後のインフレがようやく落ち着いたとして、「万国郵便連合UPU」は大正14年のストックホルム会議で、料金の値下げを決めました。唯一の「加刷連合はがき」となる、この6銭と12銭は、UPUのこの値下げ決定に対応したものです。

8「富士連合6銭正刷」

「富士連合6銭正刷」です。

さて、「加刷6銭連合はがき」から僅か百日たらずの大正14年12月25日「正刷」はがきが発行されました。「ん？同じに見えるけど……」，イエイエ違っています！表面にT字状の線を入れて、左・右に区切り，左側には通信文をかいてよいことにしたのです。右部分には日本語のほか，アドレスというフランス語も入りました。また，富士山の下「大日本帝国郵便」は「日本郵便」となりました。

※表紙の画像は薄手唐草往復はがきの使用例。返信部は未使用のまま。

「外信用はがき」連称「連合はがき」

1877年(明治10)6月20日、万国郵便連合(U.P.U.)規約の施行に依り、はらめてU.P.U.加盟国までの郵便にはがきも使用できるようになった。はがきはU.P.U.加盟国間のみ使用が限定されているが、このように外信用の郵便はがきはU.P.U.規約に基づき発行される。この「連合はがき」とも呼ばれている。

三五六はがき

1877(明治10).11.20 凸版、クリーム色洋紙 90×142mm



FC1 3銭 オリーブ緑

薄手唐草

1979(明治12).6.30. 凸版、薄手白紙 138×88mm



FC4 2銭 オリーブ緑



FC5 3銭 緑



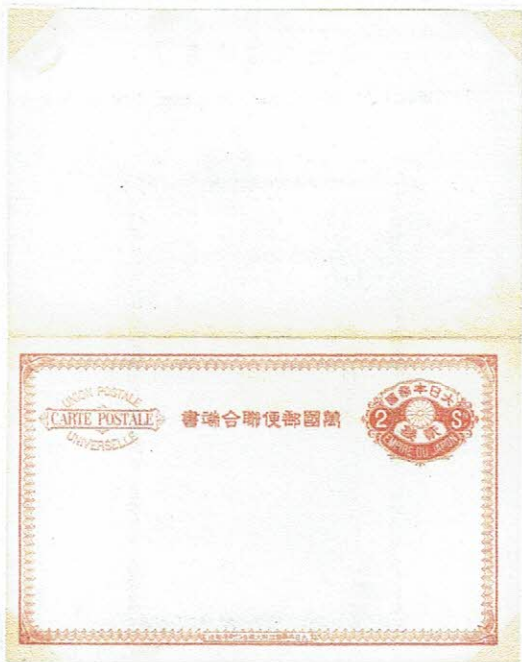
FC2 5銭 緑

FC3 6銭 薄手白紙

FC1は、アメリカ・上海・香港・厦門・天津・汕頭まで。
FC2は、アメリカ支那のU.P.U. 諸国まで。
FC3は、香港支那のU.P.U. 諸国まで。
この3枚の郵便は、1877年(明治10)6月20日から1879年(明治12)3月31日までの外信はがき料金を対応している。

薄手唐草往復

1885(明治18).1.1. 凸版. 薄手白紙. 138×98ミリ



FC 6 2枚 + 2枚 紅赤

厚手唐草

1892(明治25).7.29. 凸版. クリーム色厚手紙. 138×88ミリ



FC 8 2枚 オリーブ緑



FC 9 3枚 緑

うす墨連合

1898(明治31).3.1. 凸版. クリーム色厚手の紙. 141×91ミリ



FC 12 4枚 うす墨緑茶

・宛先欄によって異っていたが信用状は協会は、全社が制案に合う 1897年(明治30)10月1日の外郵便便付金改正で、4枚に統一された。

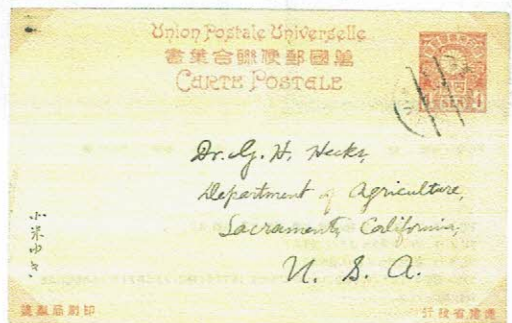
・この「うす墨連合」はあきから、往復の色は海軍の色と同色になった。そのかわりに、両者の区別するため、往復には「返信」"AVEC RÉPONSE PAYÉE", 返信時には「返信」"RÉPONSE"の表示がそれぞれ入れられている。

・色紙: 大日本郵便協会の印刷委託

桜連合

1912(明治45).2.16. 凸版. クリーム色厚紙. 142×90ミリ

- ・コスト削減のため両紙を厚の字から薄紙に切り替え、墨染を減正した。
- ・用紙の厚がなくなり、袋紙の袋紙になった。この「連合郵便」の紙が右下に入っており、これが入ったものは、この紙がきりである。



FC 14 4枚 赤

富士連合 8 銭

1922(大正11).1.1. 凸版 クリーム色薄紙 138×88ミリ



FC 16

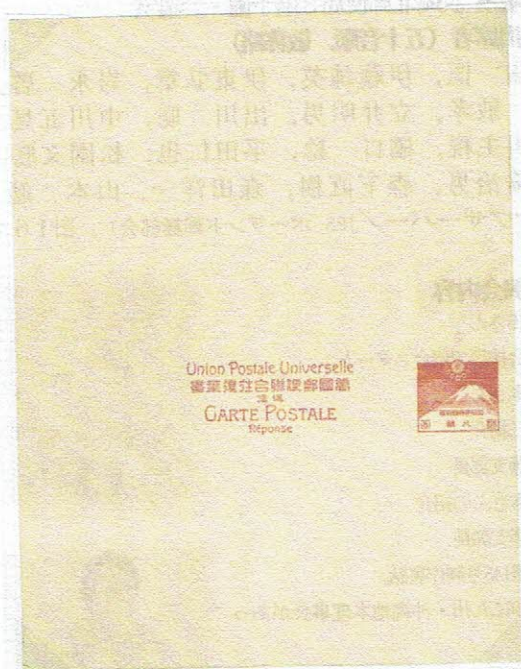
8 銭

1922年(大正11)1月1日から、はがき紙の4角の8 銭に値上げされたものが発行された。

このはがき紙から郵政切手になった。

富士連合はがき(往復)

1922.1.1



FC 17

8 銭 + 8 銭

赤

FC 17 の裏面は用済み半額紙。

1925(大正14)10.1. 凸版 クリーム色薄紙 138×88ミリ



FC 18

6 銭

赤 (FC16) (裏)

25.10.1. 24
1925年10月1日
6 銭の郵便切手
が、4 角の半額紙
に改定された。
この切手は、
4 角の半額紙に
対して、6 銭の
郵便切手として
発行された。

富士連合 6 銭

1925(大正14).12.25 凸版 クリーム色薄紙 138×88ミリ



FC 20

6 銭

赤

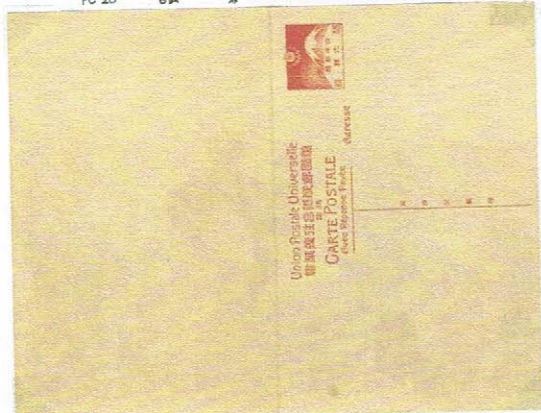
このはがき紙は
中央に「郵便局」
の文字が縦書き
で入っており、
これは「郵便局」
の文字が縦書き
で入っている
はがき紙に
対して、6 銭の
郵便切手として
発行された。

1925年12月25日
から、郵便切手
の額面が6 銭に
引き上げられた。

FC 19

6 銭 + 6 銭

赤 (FC17) (裏)



FC 21

6 銭 + 6 銭

赤